

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I-1	出題分野	ガイドブック 積算基準	11. 建築積算と施工技術 11.2 構法と工法 表11.1 P.265
設 問			正答肢番号
<p>構造形式の特性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> S造は高熱により鉄骨の強度が低下するので、耐火被覆が必要である。 S造は鋼材の製作期間などの準備期間が必要であり、現場作業も多い。 RC造は剛性が一般に良好であるが、せん断破壊時に脆(もろ)い。 SRC造は事務所、集合住宅、大スパン建築物が可能だが、工期が長い。 			2
<p>設 問</p>			<p>解 説</p> <p>表11.1 構造形式の特性比較 S造は鋼材の製作期間などの準備期間が必要であるが、現場作業は少ない。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I-2	出題分野	ガイドブック 積算基準	11. 建築積算と施工技術 11.3.1バーチャート工程表とネットワーク工程表 P.267	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>工程表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワーク工程表は、重点管理ポイントが明確にできる。 2. バーチャート工程表は、作業の前後関係が明確に表現できない。 3. ネットワーク工程表は、きめ細かい施工計画が立案できる。 4. バーチャート工程表は、工程の部分変更が全体に与える影響を発見しやすい。 			<p>バーチャート工程表は、部分変更が全体に与える影響が発見しにくい。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I-3	出題分野	ガイドブック 積算基準	11. 建築積算と施工技術 11.3.2 準備工事、解体工事、諸官庁手続き P.269、270
			正答肢番号
設 問			1
<p>準備工事段階に行う主な調査項目に関する次のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築基準法適合状況の調査 2. 敷地境界線の調査 3. 周辺道路・埋設物の調査 4. 隣接物の調査 			<p>「建築基準法適合状況調査」は準備工事段階に行うものではない。 (検査済証のない建築物が適法であるか否かを判定するための調査)</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I-4	出題分野	ガイドブック 積算基準	11. 建築積算と施工技術 11.3.8(3)設備工事 P.282、283
設 問			正答肢番号
<p>建築物における設備工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築と設備の工事区分は、設計図書により区分が異なるので、注意して確認しなければならない。 2. 施工計画に先だって現地調査をおこない、気象条件、地域性など特殊な条件について調査しておくことが大切である。 3. 防災の確保や最適環境を維持するため、建築と設備の双方が、調和の取れた工事の進め方を実現する努力をする必要がある。 4. 重量大型機器は、通常の通路や扉の大きさで搬入できない場合、躯体工事の前に搬入・設置する。 			4
<p>建築物における設備工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築と設備の工事区分は、設計図書により区分が異なるので、注意して確認しなければならない。 2. 施工計画に先だって現地調査をおこない、気象条件、地域性など特殊な条件について調査しておくことが大切である。 3. 防災の確保や最適環境を維持するため、建築と設備の双方が、調和の取れた工事の進め方を実現する努力をする必要がある。 4. 重量大型機器は、通常の通路や扉の大きさで搬入できない場合、躯体工事の前に搬入・設置する。 			<p>重量大型機器は、通常の通路や扉の大きさで搬入できない場合、躯体の床や壁に開口部を設けて搬入する。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—5	出題分野	ガイドブック 積算基準	11. 建築積算と施工技術 11.3.10検査・引渡し P.285、286	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>建物完成から引渡しまでの間に行う検査として次のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 屋上漏水検査 2. 消防検査 3. 建築確認検査 4. 工事監理者検査 			<p>屋上漏水検査は、屋上防水施工後すぐに行う検査である。</p>	
				1

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I-6	出題分野	ガイドブック 積算基準	11. 建築積算と施工技術 11.4.2ハイブリッド構造 P.290	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>CFT造(コンクリート充填鋼管造)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> CFT造は、鋼管とコンクリートの長所を有効に活用できる構造である。 CFT造は、RC造、S造、SRC造に続く第4の構造と言われている。 CFT造は、コンクリート充填性という施工性の問題があり、高層建築物には適さない。 CFT造は、建設大臣認定(当時)を取得したことにより実用化した。 			<p>CFT造は低層から高層までの幅広い建築物の柱部材として適用されている。</p>	
				3

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I-7	出題分野	ガイドブック 積算基準	1建築積算とは 1.2建築積算の目的 1.3建築積算の役割	P3~5
				正答肢番号
設 問				解 説
建築積算に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか。 1. CM、PM、FMなどのマネジメント業務の参画により、プロジェクトのコスト管理にも深く関与している。 2. 建築物の企画段階からライフサイクル全般にわたって、コストマネジメントにも深く関与している。 3. 建築物の設計図書のチェックや工事発注方式の検討、工程管理、品質管理などにも深く関与している。 4. 建築積算は、設計、施工とのトライアングルの関係にあり、設計段階から竣工までコスト管理に深く関与している。				3
建築積算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。 1. CM、PM、FMなどのマネジメント業務の参画により、プロジェクトのコスト管理にも深く関与している。 2. 建築物の企画段階からライフサイクル全般にわたって、コストマネジメントにも深く関与している。 3. 建築物の設計図書のチェックや工事発注方式の検討、工程管理、品質管理などにも深く関与している。 4. 建築積算は、設計、施工とのトライアングルの関係にあり、設計段階から竣工までコスト管理に深く関与している。				1、2、4はガイドブックに記載あり。 工程管理、品質管理などは積算業務外の領域である。

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I—8	出題分野	ガイドブック 積算基準	3工事の発注・契約 3.1発注方式 P22～25
設 問			正答肢番号
設 問			4
<p>工事の発注方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民間工事では、発注者側で調達する別途工事を除く、あらゆる要素を包括した工事を、総合請負会社に一括で発注する方式もある。 2. 公共工事では、原則として建築工事、電気設備工事、機械設備工事および昇降機設備工事を、それぞれ分離発注方式としている。 3. 民間工事では、設計業務および施工を一括して発注する、デザインビルド方式もある。 4. 民間工事では、自己の資金などを活用して施設の建設から維持管理、運営を含めた一括で発注するPFI方式がある。 			<p>解説</p> <p>PFI方式は、公共調達の一手法。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I—9	出題分野	ガイドブック 積算基準	3工事の発注・契約 3.3.2工事施工者の選定方式の種類 P27
設 問			正答肢番号
			1
<p>施工者選定方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 見積合せとは、発注者が特定する施工者から見積徴集して話し合い、双方の合意を得て契約する方式である。 2. 一般競争入札とは、発注者が示す施工実績、技術者の資格などの資格要件を満足した、すべての者が参加できる競争入札方式である。 3. 指名競争入札とは、発注者が示す施工実績、技術者の資格などの資格要件を満足した者の中から、複数社を指名する競争入札方式である。 4. 特命随意契約とは、発注者がみずから信頼のおける特定の施工者を選定し、契約する方式である。 			<p>見積合せとは、複数社の見積徴集により適当な社と契約する方式。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—10	出題分野	ガイドブック 積算基準	4設計図書 4.1設計図書の構成	P32～35
設 問				正答肢番号
設 問				2
解 説				
<p>設計図書に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設計図とは、新築、増築など、工事目的物の形状、内容、性能、品質などを示した書面であり、特記仕様書、意匠図、構造図、設備図に大別される。 2. 標準仕様書とは、当該工事のみに関連する材料の性能や品質、施工方法などを工事ごとに表現したものをいう。 3. 現場説明書とは、設計図書などで表示し難い設計条件、見積条件などを書面で示したものである。 4. 質問回答書とは、設計図書などに対する入札参加者からの質疑に対して、書面で全参加者に回答するものである。 				<p>2は特記仕様書についての記述。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—11	出題分野	ガイドブック 積算基準	6建築積算の実際 6.1建築積算の流れ	P50
設 問				正答肢番号
<p>直接工事費の算出までの積算業務の流れを示したものであるが、(A)から(D)に示す段階での作業内容のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>[作業の流れ]</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">設計図書受領</div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> <div style="margin-left: 10px;">← 積算範囲の確認</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">積算準備</div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> <div style="margin-left: 10px;">← 設計図書の確認</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">数量算出</div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> <div style="margin-left: 10px;">← (A)</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">集計表の作成</div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> <div style="margin-left: 10px;">← (B)</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">内訳書の作成</div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> <div style="margin-left: 10px;">← (C)</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">値入作業</div> <div style="margin: 0 10px;">↓</div> <div style="margin-left: 10px;">← (D)</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; width: 150px;">直接工事費の算定</div> </div> </div> <p>1. (A) — 作業分担の確認</p> <p>2. (B) — 類次物件との単位面積当りなどの数量、データのチェックなど</p> <p>3. (C) — 見積比較表作成および採用価格の決定</p> <p>4. (D) — 単位面積当たりの単価チェック</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>解 説</p> <p>図6.1 建築積算業務の流れ 作業分担の確認は「数量算出」の前に行う。</p> </div>				1

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—12	出題分野	ガイドブック	6建築積算業務の実際 6.15内訳書の作成 6.15.2 内訳書の特徴	P178～179
		積算基準		
設 問			解 説	
<p>工種別内訳書の特徴に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現場の実行予算作成や資材購入計画に便利である。 2. 専門工事会社(職種)別に細目や価格が把握しやすい。 3. 概算時や改修工事に使いやすい書式である。 4. 工事の施工プロセスに整合した科目順序である。 			<p>3は部分別内訳書についての記述。</p>	

正答肢番号

3

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—13	出題分野	ガイドブック 積算基準	6建築積算業務の実際 6.16値入業務 6.12.6(1)鉄筋	P182～183
設 問				正答肢番号
<p>鉄筋の値入業務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 溶接金網の材料費は、鉄筋のロスとは異なり、一般的には10%程度のロスを見込む。 2. 鉄筋の加工が工場加工の場合は、運搬費を別途計上する。 3. 鉄筋の材料価格は、取引数量により価格が異なるので使用される鉄筋量を考慮する。 4. 溶接閉鎖型などの工場加工済みの鉄筋は、材工価格となっているため取付費は別途計上しない。 				4
<p>設 問</p>				<p>解 説</p> <p>溶接閉鎖型筋は、現場渡しの単価なので、取付費は、別途計上する必要がある。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—14	出題分野	ガイドブック 積算基準	6建築積算業務の実際 6.16値入業務 6.12.6(2)コンクリート	P183
設 問				正答肢番号
				2
<p>コンクリートの値入業務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンクリート単価は、普通ポルトランドセメントを標準としているので、高炉セメントを使用する場合は補正する。 2. 標準型のAE減水剤入りコンクリートは、AE減水剤の単価をスライド単価により補正する。 3. コンクリートポンプ車の基本料金は、回送回数により決まるので打設計画にもとづき、打設回数を事前に想定する。 4. 構造体強度補正は、当該地域の平均気温と打設時期から補正値を想定し、補正後の強度の差額により算出する。 				<p>標準型AE減水剤は単価に含まれている。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—15	出題分野	ガイドブック 積算基準	6建築積算業務の実際 6.17概算	P196～201
				正答肢番号
設 問				解 説
<p>概算手法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各設計段階での情報量と成果品のバランスが適切であり、過不足のない概算が不可欠である。 2. 把握の難しい雑物(ユニット)は、図面に記載された内容のほか、過去の事例を参考に見込むことが必要である。 3. コストコントロールは、設計の情報量が最も多い実施設計時におこなうことで精度の向上が図れる。 4. 各設計段階での概算内訳書は、発注者を含めた第三者にも理解しやすい内容の書式とすることが重要である。 				<p>コストコントロールは、基本計画、基本設計の早い段階で行うことが必要。</p>

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号			
I—16	出題分野	ガイドブック 積算基準	5 工事費の構成	5.3 単価の種類	P.44～47	正答肢番号	
設 問				解 説			
<p>内訳書で一般的に用いられる単価に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足場などのように数件の工事に繰り返し使用する材料費を、全損材料費という。 2. 材料と労務、および専門工事会社の経費を含めた単価を、複合単価という。 3. 鉄骨工事には、鋼材の材料費と工場加工や現場建方などの労務費がある。 4. 特殊な仕様や小規模工事などで、必要な工事費用をすべて含めた一式単価がある。 				<p>耐用性により1件の工事で償却されるものを全損という。1件の現場だけで使用して、工事終了後は廃棄処分する。全損材料費＝材料単価となる。</p>			1

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—17	出題分野	ガイドブック 積算基準	8 内訳書標準書式	8.1 内訳書とは
			P.214～218	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>内訳書標準書式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工種別内訳書標準書式の中科目内訳は、各仕上関連の工種の中に、外部仕上、内部仕上などに区分する。 2. 部分別内訳書標準書式の大科目と中科目は、建物を構成する部位や部分に区分する。 3. 部分別内訳書標準書式は、仮設、土工事から躯体、仕上と工事工程の順番に概ね整理されている。 4. 改修内訳書標準書式は、改修の規模、改修範囲、改修内容などを部位として捉えることを基本としている。 			<p>3は工種別内訳書式についての記述。 工種別書式は、仮設、土工事から躯体、仕上と工事工程の順番に概ね整理されている。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I—18	出題分野	ガイドブック 積算基準	9 市場価格 9.1 相場観の必要性、9.2 価格情報の収集方法と分析 P.222～224
			正答肢番号
設 問			2
<p>価格情報に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門工事会社やメーカーなどからの見積書は、複数の会社から徴集して比較検討する。 2. 原価からアプローチした積算の技術的な相場観と、市場経済的な相場観とは、契約時点で必ず一致する。 3. 資材や工事単価など施工者が必要とする原価情報は整備されているが、発注者が支払う契約価格に関する情報は少ない。 4. 歩掛りにより複合単価を算定できるが、実勢価格と合わせて複眼的に使うことが効果的である。 			<p>多種多様な商取引や営業戦略上の要素が作用して契約価格が決まる為、技術的な相場観と市場経済的な相場観とは必ずしも一致しない。</p>

設 問

解 説

下記の躯体数量歩掛表の事例について、(A)から(C)の欄に該当する躯体数量の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。

建物概要

建物用途	庁 舎
延面積	3,440m ²
構造・階数	RC造 4階建て

躯体数量歩掛表

コンクリート(m ³ /延m ²)	型枠(m ² /延m ²)	鉄筋(t/コンクリートm ³)
(A)	(B)	(C)

	(A)		(B)		(C)
1.	4.11	—	0.12	—	0.65
2.	0.65	—	4.11	—	0.12
3.	4.11	—	0.65	—	0.12
4.	0.65	—	0.12	—	4.11

表10.4 規模別躯体数量例

① コンクリート(m ³ /延m ²)	0.65
② 型枠(m ² /延m ²)	4.11
③ 鉄筋(t/コンクリートm ³)	0.12

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—20	出題分野	ガイドブック 積算基準	14 改修工事	14.2 改修工事の特徴 P.316～317
				正答肢番号
				1
設 問			解 説	
<p>改修工事の特徴に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大規模改修工事は、すべて全館無人改修工事となる。 2. 搬入や作業場の取合いなどの制約が生じる。 3. 養生および工事用重機の選定が必要となる。 4. 改修要因として、安全向上、設備更改、ICT対応などがある。 			<p>大規模改修工事であっても「居ながら工事」となる場合が多い。</p>	

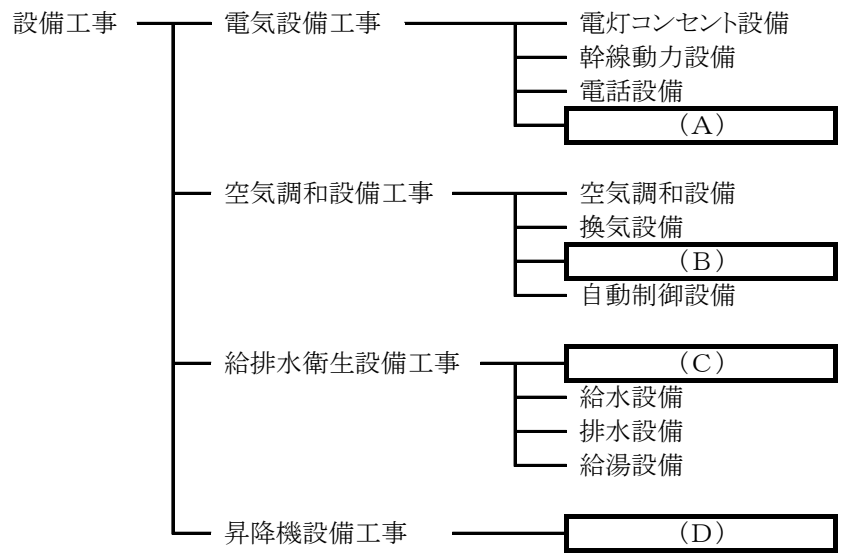
I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識					整理番号
I—21	出題分野	ガイドブック 積算基準	4. 設計図書 4.1.2 設計図	P33.34	正答肢番号
設 問			解 説		
建築設備工事の設計図に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか。 1. 換気ダクト設備図は空調設備工事用図面である。 2. 工事区分表は電気設備にも機械設備にも必要な図面である。 3. 消火設備図は給排水衛生設備工事用図面である。 4. 排煙設備図は電気設備工事用図面である。			排煙設備図は空気調和設備工事用図面。		

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—22	出題分野	ガイドブック 積算基準	6.14 建築積算業務の実際 6.16.4 設備の値入業務 P191～193	正答肢番号
設 問			解 説	
設備工事の値入れ業務に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複合単価方式による内訳書に計上する数量は、一般的に設計数量である。 2. 民間工事の施工業者の内訳書は、一般的に原価分析がしやすい複合単価方式である。 3. 専門工事は複数の専門工事会社から見積を徴収して、適切な掛率にて金額を決定する。 4. 複合単価方式で設備工事の値入をする場合、下請経費を含んだ単価とする。 			原価分析がしやすいのは積み上げ方式。	

設 問	解 説
-----	-----

2

設備工事の代表的な内訳書の構成表に関する次の(A)から(D)のうち、**最も不適切なものは**どれか。



1. (A) 火災報知設備
2. (B) スプリンクラー設備
3. (C) 衛生器具設備
4. (D) エレベーター設備

スプリンクラー設備は給排水衛生設備工事の消火設備。
(B)に該当するのは排煙設備。

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号
I—24	出題分野	ガイドブック	12. LCC(ライフサイクルコスト) 12.2 LCCによる分析メ리트の高い対象物	P299
		積算基準		
設 問			解 説	
<p>LCC(ライフサイクルコスト)による分析メ리트の高い対象物の特性に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短期的寿命を求めるもの。 2. 故障、取替え、大規模更新、修繕の頻度が低いもの。 3. メンテナンスコスト(維持・保全管理費)の低いもの。 4. エネルギーコストを含むランニングコスト(運用費)が高いもの。 			<p>LCCによる分析メ리트の高い対象物の特性は次の4項目。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①エネルギーコストを含むランニングコスト(運用費)が高いもの ②メンテナンスコスト(維持・保全管理費)の高いもの ③故障、取替え、大規模更新、修繕の頻度が高いもの ④長期的寿命を求めるもの 	
			4	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識					整理番号
I—25	出題分野	ガイドブック 積算基準	15 環境配慮とコスト 15.2.1 環境配慮計画	P323	正答肢番号
設 問			解 説		
<p>環境配慮項目の検討時期に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周辺環境保全の検討時期は計画段階、基本設計段階。 2. 長寿命化の検討時期は、計画段階、基本設計段階。 3. 省エネルギー・省資源の検討時期は、工事段階、運用段階。 4. エコマテリアルの使用の検討時期は、計画段階、基本設計段階、工事段階。 			<p>表15-4 環境配慮項目、検討対象計画、検討時期 省エネルギー・省資源の検討時期は、計画段階、基本設計段階。</p>		

3

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I—26	出題分野	ガイドブック 13 VE(バリューエンジニアリング) 積算基準	P.306～311
設 問			正答肢番号
			4
<p>VE(バリューエンジニアリング)に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設計段階でのVE提案は、原設計に対し機能と初期建設費(インシヤルコスト)を下げるための手段として活用される。 2. 設計段階におけるコスト管理機能としては、計画建築物に対する的確な工事費算定(コストの把握)までは要求されない。 3. 契約後のVE提案とは、契約時の設計図書をもとに発注者が改善案を検討し、提案を行うことである。 4. VEとは、価値を機能とそのためにかかるコストとの関係で把握し、価値の向上をはかる手法である。 		<p>13.1 VEとは 製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」とそのためにかかる「コスト」との関係で把握し、システム化された手順によって「価値」の向上をはかる手法である。</p>	

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号
II-1	出題分野	ガイドブック 積算基準	7 建築数量積算基準 7.3.1 総則の定義 (2) 数量とは 第1編 総則 3、5 (4) P.330	P.207
設 問				正答肢番号
建築数量積算基準の数量に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか。				3
<ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄筋の材料数量を所要数量とした。 2. 根切りの数量を計画数量とした。 3. コンクリートの材料数量を所要数量とした。 4. 屋根防水の数量を設計数量とした。 				<p>ガイドブック コンクリートは、計画数量、所要数量の項目に該当しないので、設計数量とする。</p>

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-2	出題分野	ガイドブック 積算基準	正答肢番号
		6 建築積算業務の実際 6.12.4 直接仮設 (2) 直接仮設の数量 P.160、161 第2編・第4節 直接仮設の計測計算 2 各直接仮設の計測・計算 P.332	4
設 問		解 説	
仮設に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか。 1. 墨出し、養生、整理清掃後片付けの数量は、延床面積とする。 2. 外部本足場の数量は、足場の中心の水平長さで構築物などの最上部までの高さによる面積とする。 3. 地足場の数量は、建築面積とする。 4. 鉄筋・型枠足場の数量は、階高により区別した延床面積とする。		ガイドブック (2)直接仮設の数量 ⑧鉄筋・型枠足場の数量は、階高により区別した対象面積とする。	

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号
II-3	出題分野	ガイドブック 積算基準	6 建築積算業務の実際 6.2.2 各項目の計測 (1)、(3) P.54 6.2.3 敷地状況により発生する項目の積算 (2) P.56 6.3.2 各項目の計測 (1) P.59 第3編・第1章 土工 第2章 地業 P.333～335	正答肢番号
設 問			解 説	
土工・地業の計測・計算に関する次の記述のうち、 最も不適切なもの はどれか。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 根切り数量は、根切り面積と根切り深さによる体積とする。 2. 既製杭の数量は、材種、形状、寸法、工法などにより区別し、継手を考慮した杭の体積とする。 3. 整地の数量は、指定された範囲の水平面積とする。 4. 砂利地業は、設計図書による面積とその厚さによる体積とする。 			積算基準 2 各地業の計測・計算 (1)既製杭 2) 既製杭の数量は、材種、形状、寸法、工法などにより区別し、継手を考慮した杭のセット本数とする。	

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-4	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4.2 躯体の計測・計算	P.64～84	正答肢番号
		積算基準	第4編・第1章 躯体の定義と区分 第2節 躯体の区分	P.336	
設 問			解 説		
<p>躯体の計測・計算の区分に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 底盤とは独立基礎、布基礎または基礎梁に囲まれた内法部分をいう。 2. 壁とは、柱、梁、床板などに接する垂直材の内法部分をいい、開口部を含む。 3. 階段とは、段スラブおよびこれに付随する部分をいい、踊場、手摺壁なども含む。 4. 小梁とは、大梁に接する横架材の内法部分をいう。 			<p>積算基準</p> <p>(5) 壁 壁とは、柱、梁、床板などに接する垂直材の内法部分をいい、開口部を除く。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号
II-5	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4.1 躯体とは	P.61～63
		積算基準	第4編・第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 第3章 鉄筋 第2節 鉄筋の計測・計算	P.337～340
設 問			解 説	
<p>躯体の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 窓、出入り口の開口部による型枠の欠除は、原則として建具類の内法寸法とする。 2. コンクリートの断面寸法は、小数点以下第3位まで計測・計算する。 3. 鉄筋および小口径管類によるコンクリートの欠除は、すべて差し引く。 4. 圧接継手の加工のための鉄筋長さの変化はないものとする。 			<p>積算基準</p> <p>1 通則</p> <p>(1) コンクリート</p> <p>2) 鉄筋および小口径管類によるコンクリートの欠除はないものとする。</p>	
			3	

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-6	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4.2 躯体の計測・計算	P.64～84	正答肢番号
		積算基準	第4編・第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 2 各部分の計測・計算	P.338～339	
設 問			解 説		
<p>コンクリートの計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 床板コンクリート数量は、設計寸法による板厚と梁などに接する内法面積とによる体積とし、柱との取合い部分の床板の欠除はないものとする。 2. 布基礎のコンクリートの数量は、設計寸法による断面積とその長さによる体積とする。 3. 小梁のコンクリートの数量は、設計寸法より床板厚さを減じた断面積とその長さによる体積とする。 4. 階段コンクリート数量は、設計寸法に段スラブおよび踊り場などの板厚と、その内法面積とによる体積とする。手摺壁は壁に準ずる。 			<p>積算基準</p> <p>(3) 梁</p> <p>1) コンクリート数量は、設計寸法による断面積とその長さによる体積とする。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-7	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4.2 躯体の計測・計算	P.64～84	正答肢番号
		積算基準	第4編・第2章 コンクリート部材 第2節コンクリート部材の計測・計算 1 通則	P.337～339	
設 問			解 説		
<p>型枠の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梁と床板、基礎梁と底盤、同一幅の柱と梁の接続部は、「あとの部分」の型枠を差し引く。 2. 階段の型枠の数量は、コンクリートの底面および他の部分に接続しない側面、踏面ならびに蹴上げの面積とする。手摺壁は壁に準ずる。 3. 基礎梁の型枠の数量は、コンクリートの側面の面積とする。 4. 開口部の内法の見付面積が1か所当り0.5㎡以下の場合、原則として型枠の欠除はないものとする。 			<p>積算基準</p> <p>(2) 型枠</p> <p>2) 梁と床板、基礎梁等と底盤、同一幅の柱と梁等および壁式構造における壁と床板の接続部は、第2章第2節のコンクリート部材の計測・計算2)の定めによる「さきの部分」の接続部の型枠を差し引く。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-8	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4.1 躯体とは 6.4.2 躯体の計測・計算	P.63、P.72	正答肢番号
		積算基準	第4編・第3章 鉄筋 第2節 鉄筋の計測・計算	P.339	
設 問			解 説		
<p>鉄筋の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎柱部分の主筋の長さが3.0m以上の場合は、1か所の継手があるものとする。 径の異なる鉄筋の重ね継手は、大径による継手の長さによるものとする。 フープの長さは、柱のコンクリート断面の設計寸法による周長を鉄筋の長さとし、フックはないものとする。 フープの割付本数は、その部分の長さを鉄筋の間隔で除し、小数点以下第1位を切り上げた整数に1を加える。 			<p>積算基準</p> <p>1 通則</p> <p>6) フック、定着、および重ね継手の長さについて設計図書に記載のないときは、日本建築学会、建築工事仕様書JASS5鉄筋コンクリート工事の規定を準用し、(中略)なお、径の異なる鉄筋の継手は小径による継手とする。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II—9	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.5 鉄骨	P.85～113	正答肢番号
		積算基準	第4編・第4章鉄骨 第2節 鉄骨の計測・計算	P.343	
設 問			解 説		
<p>鉄骨の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梁の継手接合に必要な、スプライスプレートおよび高力ボルトは「あとの部分」の梁で計測・計算する。 2. ボルト類のための孔明け、柱・梁などの接続部のクリアランスなどによる鋼材の欠除は、原則としてないものとする。 3. 鉄骨柱は、柱脚ベースプレート下端から最上端までの、柱として工場製作する部分をいう。 4. 複雑な形状の鋼板は、その形を含む最大の長方形として、計測・計算する。 			<p>積算基準</p> <p>1 通則</p> <p>5) 鋼板は原則として設計寸法による面積を計測・計算する。ただし、複雑な形状のものはその面積に近似する長方形として計測・計算することができる。</p>		
			4		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号		
II—10	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.10.2 間仕切下地の種類 (4)軽量鉄骨(LGS)間仕切下地	P.146～147	正答肢番号
		積算基準	第5編・第1章 間仕切下地 第2節 間仕切下地の計測・計算	2材種による特則 (4)金属材	P.345	
設 問				解 説		
<p>スタッド式軽量鉄骨間仕切下地の計測・計算に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 躯体または準躯体の設計寸法による面積とし、配管、配線、器具などによる欠除はないものとする。 2. 開口部のための補強は、間仕切下地の構成部材とし、原則として計測の対象としない。 3. 面積は材質、スタッドの幅およびスタッドの間隔ごとに区分して計測・計算する。 4. スタッド上下のランナーは、それぞれ壁の長さを数量とし、別計上する。 				<p>積算基準 (4)金属材 スタッド式軽量鉄骨間仕切においては、スタッド幅及びスタッド間隔ごとに区別して計測・計算する。</p> <p>1通則 4)より1は誤り。0.5㎡を超える欠除は差し引く。 3)より2は誤り。開口補強はか所または長さを数量とする。 5)より、4は誤り。 スタッド上下のランナーは、間仕切りの構成部材とみなされるため計測の対象としない。</p>		
				3		

II 数量積算の理解に関する知識					整理番号	
II-11	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.11.10 内外装 (12)耐火壁	P.153	正答肢番号
		積算基準	第5編・第1章 間仕切下地 第2節 間仕切下地の計測・計算	2 材種による特則 (5)耐火間仕切	P.345	
設 問				解 説		3
<p>軽量鉄骨(LGS)下地とボードによる耐火間仕切の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 軽量鉄骨(LGS)下地と両面のボードを一括りにして、片面の面積で計測・計算する。 2. 壁の高さや、ボードの種類、厚さによって区分する。 3. 耐火シールは間仕切りの上下の延長さで計上する。 4. デッキプレートや鉄骨梁に取付ける場合は、別に取付金物を計上する。 				<p>ガイドブック (5)耐火間仕切 ④周囲(四周・両面)に耐火シールを延べ長さで計上する。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号		
II—12	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.7.1 外部仕上の区分	P.118	正答肢番号
		積算基準	第5編・第2章 仕上 第1節 仕上の定義と区分	2 仕上の区分 (2)外部仕上	P.346	
設 問				解 説		1
<p>外部仕上の区分に関する次の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p> <p>1. 屋根・外部床 --- パラペット笠木</p> <p>2. 外壁 --- 独立柱</p> <p>3. 外部天井 --- 天井付梁</p> <p>4. 外部開口部 --- 建具の額縁</p>				<p>積算基準</p> <p>(2)外部仕上</p> <p>2)外壁</p> <p>外壁は建物外部の側面をいい、開口部を除く。独立柱、壁付柱、壁付梁、開口部周囲の見込、パラペット笠木、手摺笠木等は外壁に属するものとし、それぞれに区別する。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識					整理番号	
II—13	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.9.2 ガラス	P.144	正答肢番号
		積算基準	第5編・第2章 仕上 第2節 仕上の計測・計算	3 材種による特則 (11)ガラス材	P.351	
設 問				解 説		3
<p>ガラスの計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面がガラスである建具のガラスの数量は、原則として建具の内法寸法による面積を数量とする。 2. トップライト、ガラスブロックなどのガラス材による主仕上は、設計寸法による面積またはか所数を数量とする。 3. 額入建具のガラスは、設計寸法に片側0.03mを加えた寸法による面積を数量とする。 4. 強化ガラスによる建具は、形状などにより区分し、建具類の符号、サイズ別のか所数を数量とする。 				<p>積算基準 (11)ガラス材 2)額入建具等のガラスの計測・計算は、設計寸法による。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識					整理番号	
II-14	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.11 内外装仕上の工種ごとの解説	P.149～151	正答肢番号
		積算基準	第5編・第2章 仕上 第2節 仕上の計測・計算	3 材種による特則 (7)金属材	P.350	
設 問				解 説		2
<p>金属材の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手摺、タラップ、たて樋などの数量は、原則として設計寸法による長さ、またはか所数による。 2. 屋根の主仕上は、原則として軒先までの設計寸法による面積とし、開口部による欠除はないものとする。 3. 天井の骨組下地は、躯体からの「ふところ」寸法、野縁などの仕様により区分し、その主仕上の数量による。 4. メタルラス、ワイヤラスなどの下地材は、原則としてその主仕上の数量による。 				<p>積算基準 (7)金属材</p> <p>3) 金属、合成樹脂等による屋根の主仕上の計測・計算に当たっては、第2章第2節の仕上の計測・計算の定めは適用せず、原則として軒先等までの設計寸法による面積から、天窗等の内法寸法による開口部の面積を差し引いた葺上げ面積を数量とする。ただし、開口部の面積が1か所当たり0.5㎡以下のときには、その主仕上の欠除はないものとする。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号		
II-15	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.13 屋外施設等	P.162～168	正答肢番号
		積算基準	第6編 屋外施設等		P.353	
設 問				解 説		4
<p>屋外施設の区分に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 屋外排水は、U型側溝、雨水排水管、雨水枿などとし、建物からの汚水排水は含まない。 2. 植栽は、構内における樹木、芝類の新植および移植とし、ツリーサークルを含む。 3. 囲障は、構内の境界などに設置する門、フェンスなど、および植込み土留めとし、造成のための擁壁は含まない。 4. 構内舗装は、構内の各種舗装と縁石、車止めなどとし、区画線および道路標示などは含まない。 				<p>積算基準 (3)その他 区画線、車止め及び道路表示等の数量は、材種、寸法ごとに長さ又はか所数を計測・計算する。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号
II—16	出題分野	ガイドブック 積算基準	第8編 発生材処理 第1章 発生材処理 第2節 発生材処理の計測・計算	P.357～358
設 問			解 説	
<p>改修工事の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建具改修の撤去工法における枠廻りのはつりの数量は、建具の枠の内法寸法による長さとする。 2. タイルなどの撤去の場合で、カッター入れを計測・計算するときは、設計寸法による長さを数量とする。 3. 発生材処理は、関係法令に基づき分別し、その数量は材料ごとに割増し係数を掛けた体積とする。 4. 内装の下地処理は、工法ごとに区分し、その数量は設計寸法による面積、長さおよびか所数とする。 			<p>積算基準 第2節 発生材処理の計測・計算 発生材処理は、関係法令に基づき分別し、その数量は設計寸法による面積とその厚みによる体積又は質量とする。</p> <p>上記より、割増し係数を掛けるのは誤り。</p>	
				正答肢番号 3

II—17

出題分野

ガイドブック

第6章 建築積算業務の実際 6.2 土工 6.2.2 各項目の計測 P.53～55

積算基準

第3編 土工・地業 第1章 土工 第2節 土工の計測計算 2 土の処理の計測・計算 (2) 根切り P.333～334

正答肢番号

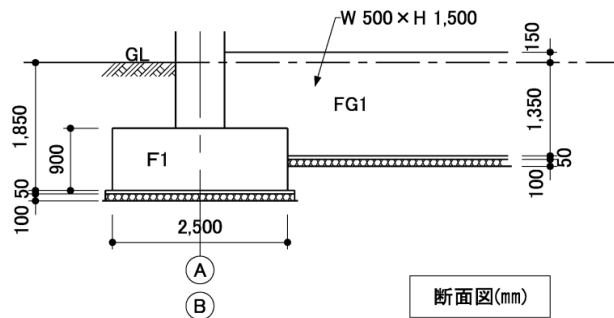
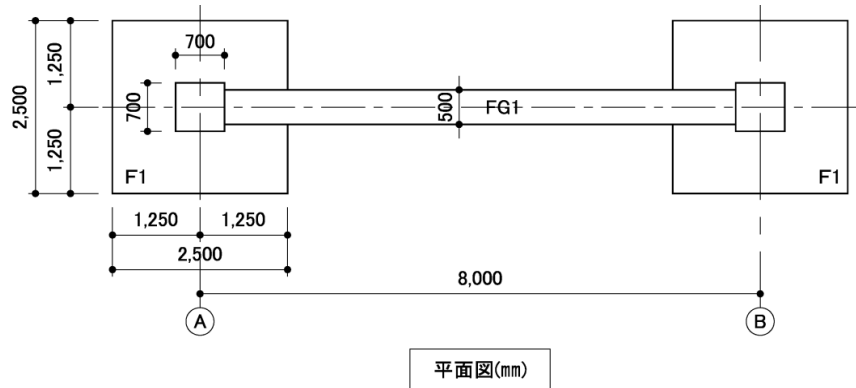
1

設 問

解 説

下図の基礎梁 (FG1) の根切り長さ(m)の計測寸法として次のうち、最も適切なものはどれか。

- (m)
1. 3.90
 2. 4.50
 3. 4.90
 4. 5.50



根切り深さ $H=2,000$
 余幅 $W=500+(2,000 \times 0.3 \div 2)=800$
 基礎梁根切り長さ $8.00-1.25 \times 2-0.80 \times 2=3.90$

II-18

出題分野

ガイドブック

6 建築積算業務の実際

6.4.2 躯体の計測・計算 P.80～81

積算基準

第4編・第2章 コンクリート部材

第2節 コンクリート部材の計測・計算

P.337～338

正答肢番号

1

設 問

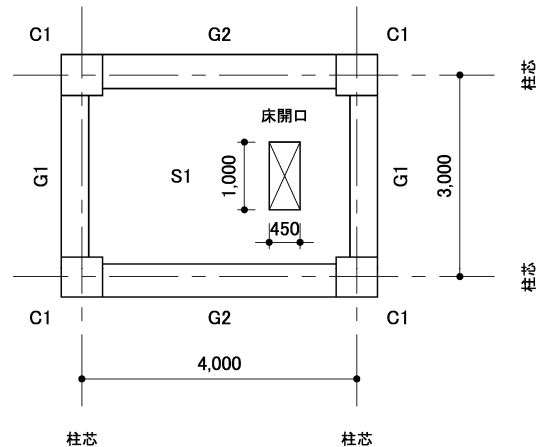
解 説

下図の床板(S1)のコンクリート数量(m³)として次のうち、最も適切なものはどれか。

- (m³)
1. 1.98
 2. 1.96
 3. 1.89
 4. 1.87

【断面リスト】 (単位mm)

	柱	梁	梁	床
記号	C1	G1	G2	S1
寸法	600 × 600	W 400 × × H 1,200	W 500 × H 1,000	厚 200



積算基準

1 通則

(1) コンクリート

4)(前略)ただし、開口部の内法の見付面積が1か所当たり0.5m²以下の場合は、原則として開口部によるコンクリートの欠除はないものとする。

開口部: $0.45 \times 1.00 = 0.45 < 0.50\text{m}^2 \rightarrow$ 欠除なし

長辺寸法: $4.00 + 0.30 \times 2 - 0.40 \times 2 = 3.80$

短辺寸法: $3.00 + 0.30 \times 2 - 0.50 \times 2 = 2.60$

コンクリート数量

$$3.80 \times 2.60 \times 0.20 = 1.98$$

II-19

出題分野

ガイドブック
積算基準

6 建築積算業務の実際

6.4.2 躯体の計測・計算 P.72～73

第4編・第2章 コンクリート部材

第2節 コンクリート部材の計測・計算

P.337～338

正答肢番号

1

設 問

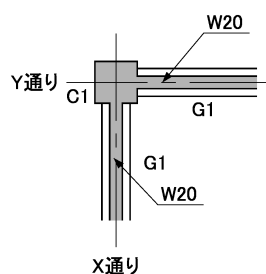
解 説

下図の柱(C1)の型枠数量(m²)として次のうち、**最も適切なもの**はどれか。

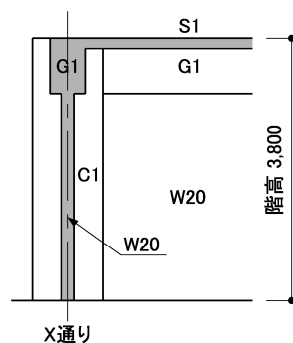
- (m²)
- 1. 9.12
 - 2. 7.92
 - 3. 7.28
 - 4. 7.25

【断面リスト】 (単位mm)

	柱	梁	床	壁
記号	C1	G1	S1	W20
寸法	600 × 600	W 400 × H 800	厚 150	厚 200



平面図(mm)



断面図(mm)

積算基準

1 通則

(2) 型枠

2)(前略)これ以外の接続部の面積が 1.0m²以下のか所の型枠の欠除はないものとする。

柱と梁の接続部の1か所の面積

$$A = 0.8 \times 0.4 = 0.32 < 1\text{m}^2 \rightarrow \text{欠除なし}$$

柱と壁の接続部分の1か所の面積

$$A = (3.8 - 0.8) \times 0.2 = 0.60 < 1\text{m}^2 \rightarrow \text{欠除なし}$$

柱の型枠数量

$$A = 0.6 \times 4 \times 3.8 = 9.12$$

II-20	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.4.2 躯体の計測・計算	P.82~83	正答肢番号
		積算基準	第4編・第3章 鉄筋 第2節 鉄筋の計測・計算		P.339~341	

設 問

解 説

下図の壁(W12)の鉄筋数量(m)として次のうち、最も適切なものはどれか。

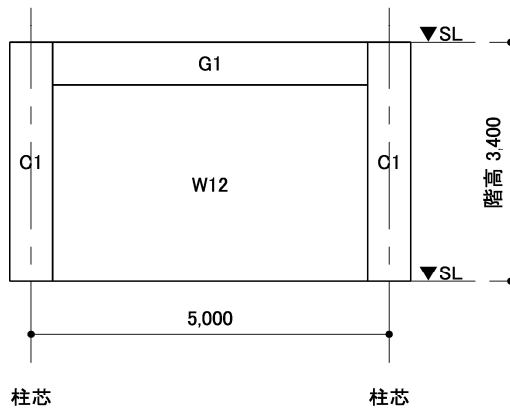
- (m)
- 148.4
 - 157.0
 - 157.2
 - 166.2

【断面リスト】 (単位mm)

	柱	梁	壁
記号	C1	G1	W12
寸法	600 × 600	W 400 × H 600	厚 120

【壁 W12 配筋】

縦筋・横筋 D10@200シングル
 定着長さ 0.35m
 継手長さ 0.40m



立面図(mm)

積算基準

1 通則

4) (前略)鉄筋の長さについて、径13mm以下の鉄筋は6.0mごとに(中略)継手があるものとして継手か所数を求める。

2 各部分の計測・計算

(5) 壁

1) 壁 (壁式構造以外)

② 縦筋の継手は原則として各階に1か所あるものとし、(後略)。

上記より、横筋は6.0m未満のため継手無し、縦筋の継手は各階1か所。

鉄筋長

縦筋 $2.80 + 0.35 \times 2 + 0.4 = 3.9$

横筋 $4.4 + 0.35 \times 2 = 5.1$

割り付け本数

縦筋 $4.40 \div 0.20 = 22$ $22 + 1 = 23$ 本

横筋 $2.80 \div 0.20 = 14$ $14 + 1 = 15$ 本

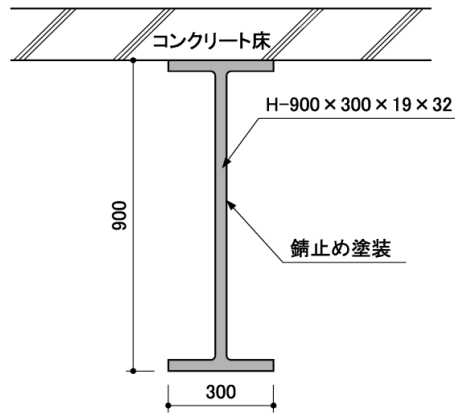
$\Sigma L = 3.9 \times 23 + 5.1 \times 15 = 166.2$

設 問

解 説

下図のH形鋼梁の10m当たりの錆止め塗装面積 (m²)として次のうち、最も適切なものはどれか。

- (m²)
1. 26.4
 2. 26.6
 3. 27.0
 4. 30.0



断面図(mm)

積算基準

2) 錆止め塗装の数量は、原則として鉄骨部材表面の面積とする。(後略)

$$A = (2 \times 0.9 + 3 \times 0.3 - 2 \times 0.02) \times 10 = 26.6$$

II—22	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.6.4 仕上計測の留意点	P.116～117	正答肢番号
		積算基準	第5編・第2章 仕上	第2節 仕上の計測・計算	2 主仕上の計測・計算	

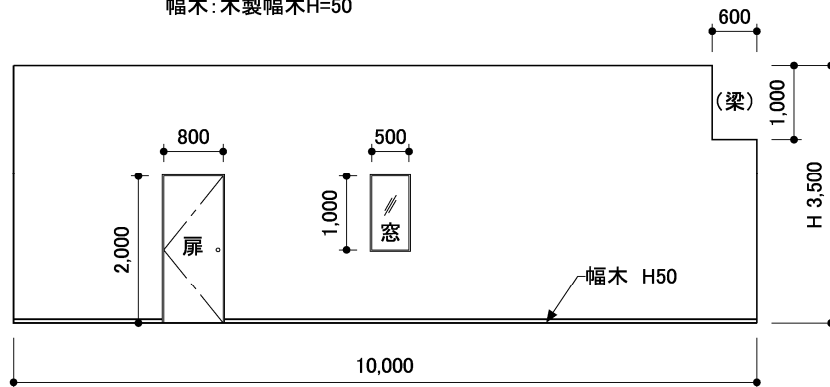
設 問

解 説

下図の展開図A面の壁EP塗の数量(m²)として次のうち、最も適切なものはどれか。

- (m²)
1. 31.84
 2. 32.30
 3. 32.34
 4. 32.80

壁仕上:石膏ボード+EP塗
幅木:木製幅木H=50



展開図A面(mm)

積算基準

(1) 計測・計算する寸法

1) 主仕上の数量は、原則として躯体又は準躯体表面の設計寸法による面積から、建具類等開口部の内法寸法による面積を差し引いた面積とする。ただし、開口部の面積が1か所当たり0.5m²以下のときは、開口部による主仕上の欠除は原則としてないものとする。

(2) 欠除部分の処理

1) 各部分の取合による欠除

壁部分の梁小口、天井又は床部分の柱小口等で、その面積が1か所当たり0.5m²以下のときは、その部分の仕上の欠除は原則としてないものとする。

3) 附合物等による欠除

面積が1か所当たり0.5m²以下の附合物又は高さもしくは幅が0.05m以下の幅木、回縁、ボーダー等による各部分の仕上の欠除は、原則としてないものとする。

$$\begin{aligned}
 A &= 10.0 \times 3.5 - 0.8 \times 2.0 - 0.6 \times 1.0 \\
 &= 35.0 - 1.6 - 0.6 \\
 &= 32.8
 \end{aligned}$$

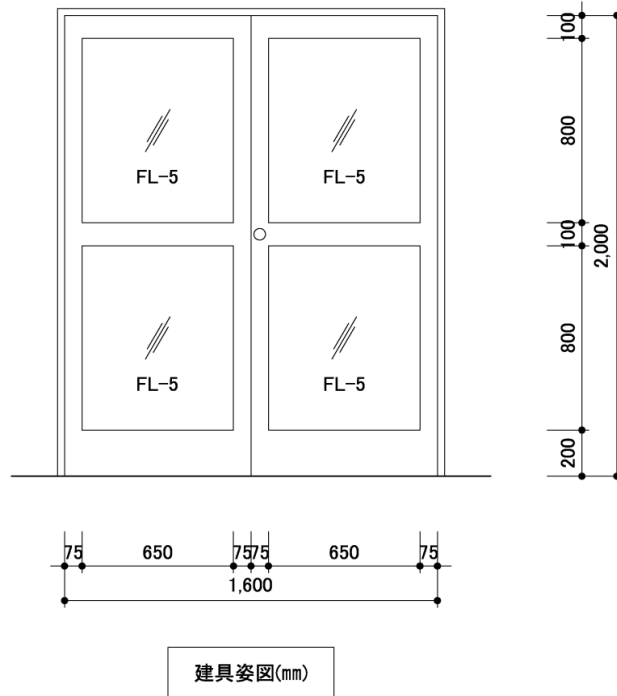
II—23	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.9.1 塗装	6.9.2 ガラス	P.143～144	正答肢番号
		積算基準	第5編・第2章 仕上	第2節 仕上の計測・計算	3 材種による特則 (11)ガラス材 (12)塗装・吹付材	P.351	

設 問

解 説

下図の扉のフロートガラス(FL-5)と建具塗装数量(m²)の次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。ただし、建具の塗装係数は1.5とする。

	ガラス(m ²)		建具塗装(m ²)
1.	2.56	---	1.68
2.	2.56	---	4.80
3.	2.88	---	1.68
4.	2.88	---	4.80



積算基準

(11)ガラス材

1)全面がガラスである建具類のガラスの数量は、材質、規格等ごとに、原則として建具類の内法寸法による面積を数量とする。ただし、かまち、方立、棧等の見付幅が0.1mを超えるものがあるときは、その面積を差し引いた面積とする。

(12)塗装・吹付材

2)(前略)建具類又は鉄骨等の塗装材による表面処理について計測・計算するときは、適切な統計値によることができる。

ガラス

$$A = 1.60 \times (2.0 - 0.20) \\ = 2.88$$

塗装

$$A = 1.6 \times 2.0 \times 1.5 \\ = 4.80$$

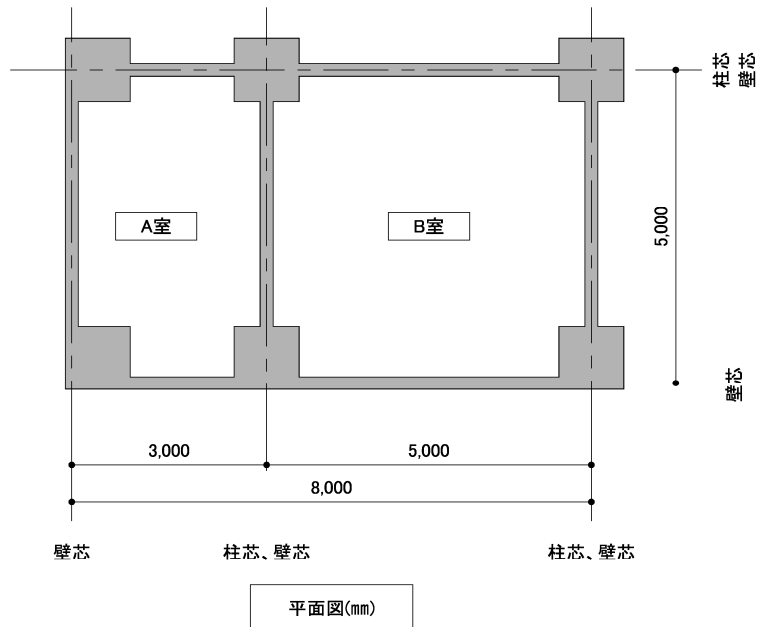
II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-24	出題分野	ガイドブック 積算基準	6 建築積算業務の実際 第5編・第2章 仕上 第2節 仕上の計測・計算	6.6.4 仕上計測の留意点 (5) 欠除部分の処理 第7編・第1章 仮設 第2節 直接仮設の計測・計算	P.116～117 P.347、355
設 問					正答肢番号
					2

下図の鉄筋コンクリート造の内部改修工事において、床仕上の撤去面積(m²)と、天井足場面積(m²)の次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。数量はA室とB室の合計とする。

	床仕上撤去面積(m ²)	天井足場面積(m ²)
1.	35.84	---
2.	35.84	23.04
3.	36.48	---
4.	36.48	23.04

改修内容

- A室: 床仕上を撤去し、新たに同じ仕上を施す。
- B室: 床仕上および天井仕上を撤去し、新たに同じ仕上を施す。
天井高さは2,500とし、天井面に梁は出ないものとする。
- ・柱はすべて1,000×1,000
- ・壁はすべて厚さ200
- ・床仕上はタイルカーペット
- ・天井仕上は軽量鉄骨(LGS)下地、化粧石膏ボード貼り



解 説

積算基準

2 主仕上げの計測・計算(第5編)

(2) 欠除部分の処理

1) 各部分の取合による欠除

壁部分の梁小口、天井又は床部分の柱小口等で、その面積が1か所当たり0.5m²以下のときは、その部分の仕上の欠除は原則としてないものとする。

2 直接仮設の計測・計算(第7編)

(3) 足場

2) 内部足場

内部仕上げ足場の数量は、天井の改修面積とする。

床撤去面積

$$\begin{aligned}
 A &= (2.8 \times 4.8 - 0.8 \times 0.8) + 4.8 \times 4.8 \\
 &= 12.80 + 23.04 \\
 &= 35.84
 \end{aligned}$$

天井足場面積

$$\begin{aligned}
 A &= 4.8 \times 4.8 \\
 &= 23.04
 \end{aligned}$$